明石の史跡（５０）長林寺の千部経

須磨寺の古記録『当山歴代』によれば、寛永５年（１６２８）３月２１日よりおこなわれた長林寺（材木町）での千部経に、不動坊・大聖院・宝性坊・花厳院・兵部卿・中納言の６人が参加している。もちろん主催者は、明石藩主小笠原忠真である（同書１３８頁）。

千部経とは、千部読経のことで、「同じ経を千人で一部づつ、あるいは一人で千遍」を読み、千部読経をする法会を、千部会という（『仏教語大辞典』下．８３４頁）。千部会の目的は、「追善や祈願」であり、小笠原忠真の意図するところはなんであったのか。

『明石市史年表』より、小笠原忠真の明石新城への入城（元和６年）から、寛永５年までの主要１４項目のうち、人丸社関係が５項目ある（『明石市史上』）。周知のように、明石城地選定に関しては、塩屋・蟹坂・人丸山の候補地のうち、人丸山に決定の事情については、「明石の史跡３４」でふれておいた。古くから明石の人々の信仰を集めた人丸社を、現在の場所に移動させたことにたいする、鎮座と安寧への祈願。これも千部会の目的のひとつであったものと推察したい。

天台宗長林寺での千部経に、近世以前には天台宗であった須磨寺（福祥寺）の僧侶６名がなぜ参加しているのだろうか。藩内の天台の各寺院から召集された僧侶では、不足したのかも知れない。慶安元年（１６４８）６月２７日、華厳院住持真源は、御朱印拝領のため江戸に下向。そのとき高野山無量寿院の御添状申請しており、無事目的（御朱印拝領）達成した（前掲書１４０頁）。高野山は真言宗であり、このとき須磨寺は、幕府より公式に真言宗と認定されたのであろうか。そうすれば、寛永５年の時点で、長林寺の千部経に参集したのも理解できよう。

長林寺

日本歴史学会会員 茨木 一成